今月の話題　　NO.73

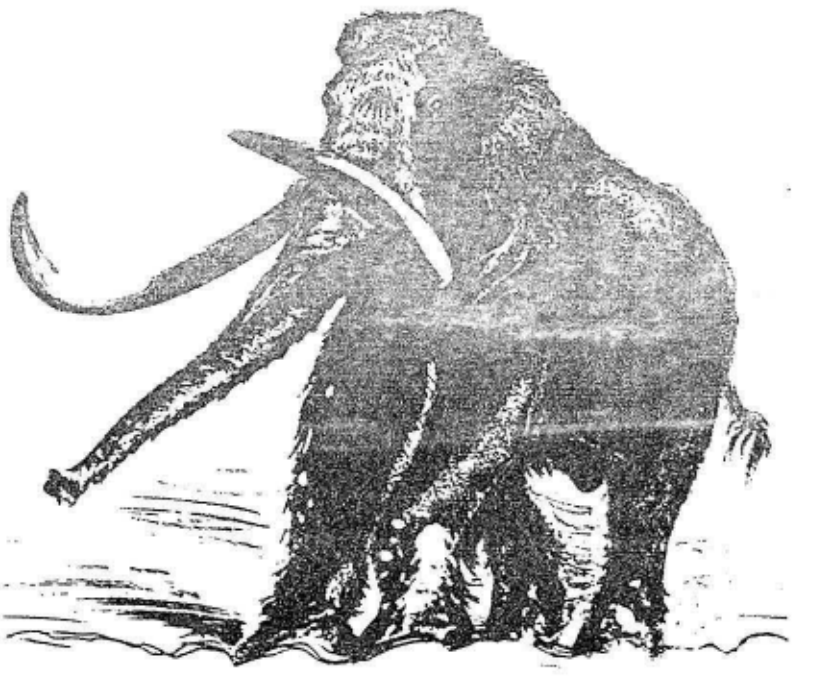
ナウマンゾウと埋没林

←過去へ　　現在へ→

5.00 先カンブリア代	5.30 古生代					2.45 中生代			0.65 新生代	0 (億年前)
	カンブリア紀	オルドビス紀	シルル紀	デボン紀	石炭紀	二畳紀	三畳紀	ジュラ紀	白亜紀	第三紀	第四紀

今年の3月23日から、科学文化センターの1階ロビーに、ナウマンゾウの復元模型と埋没林（海底林）樹根を、いっしょに展示することになりました。　ともに氷河時代と関係の深いものです。

ナウマンゾウは、中国大陸北部から日本列島にかけて生きていたゾウで、日本では、今から約30万年前～1万6千年前まで、沖縄をのぞく各地にすみついていました。　しかし、氷河時代のおわりに絶滅してしまいました。



←金子三蔵〔日本の自然（平凡社）より〕→

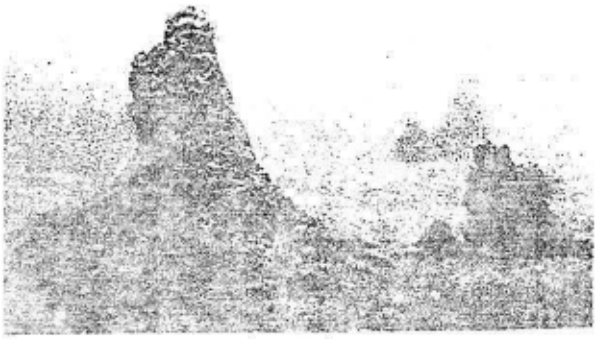
富山県からは、上新川郡大沢野町長川原で歯の化石が発見されていて、約3万1千年よりも古いものとされています。東砺波郡平村祖山からもトクナガゾウと

よばれているゾウの歯の化石がみつかっていますが、これもナウマンゾウのなかまのものであると考えられています。

埋没林（海底林）は、昭和55年（1980年）入善の吉原海岸のおきあい500m、深さ20m~40mの海底から100本以上もみつかりました。それらのうちのいくつかは、海底に根を下ろした状態でみつかり、木の種類は大部分がヤナギやハンノキでした。これらの木々の年代測定から、最も古いものは約1万年前に陸上にはえていた木であることがわかりました。これは、現在のところ世界で最も古いものです。今から約1万年前は、ウルム氷期（約7万年前～1万年前）とよばれる氷河時代もおわりに近づき、低かった海水面がゆっくりと上昇していたころです。これらの埋没林（海底林）は、黒部川から運ばれた大量の土砂でうめられて、その後、海水面が上がってきて、今のようになったものと考えられています。

富山県には、このような川の堆積作用によってできた埋没林が、陸上や海底に、規模の大小を問わず、たくさんあります。

ナウマンゾウや埋没林は、富山の自然の生いたちを物語る貴重な資料です。



埋没林

富山市科学文化センター
富山市西中野町3丁目1番19号（〒930-11）
電話 富山（0764）31-2123（代表）

昭和57年4月1日発行